

学校教育目標	「人やものに豊かにかかわり、ともに未来を創る子」				
	○互いを尊重しながら伝え合い、学びをつなげて物事を深く考える子どもを育てます。(知) ○自分を見つめ自分の良さに気づき、他者を思いやり、共によりよく生きる子どもを育てます。(徳) ○自他の生命と体を大切に、自ら健やかな体をつくる子どもを育てます。(体) ○自分らしい夢や目標を持ち、地域や社会のために自分ができることを考え行動し続ける子どもを育てます。(公) ○自他の違いを受け止めながらコミュニケーションを図り、共に分かり合おうとする子どもを育てます。(開)				
学校概要	創立 54 周年	学校長 上野 知己	副校長 犬塚 真	2 学期制	一般学級: 24 個別支援学級: 3
	児童生徒数: 806 人 主な関係校: 汐見台中学校・森中学校・浜小学校・山王台小学校・屏風浦小学校・森東小学校				

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<コミュニケーション能力>	汐見台中学校 森中学校 浜小学校 山王台小学校 屏風浦小学校 森東小学校	自他の心を大切に、主体的に考え行動する森・汐見台の子どもたち 「コミュニケーション能力の育成」をブロック授業研のテーマとして設定し、各教科領域においてテーマを意識した授業を展開する。小中合同授業研究会でお互いの授業を見合い、協議会でその手立てについてやコミュニケーション能力の育成を教育活動の中心に据えて各校が教育活動を展開してきたことが子どもの具体の姿としてどのように表れているのかを話し合うことで教育活動を検証していく。

中期取組目標	○子どもと教師が豊かにつながり、分かる楽しさ、学ぶ喜び、触れ合う楽しさ、できた満足感、やり遂げた充実感いっぱい学校づくりを目指します。 ・学び合う喜びを実感できる授業づくりを推進し、意欲的に学び続ける力を育てます。(知) ・子ども同士が豊かにかかわり合う機会を多く設け、相手を思いやり互いに分かり合う心を育てます。(徳) ・建て替えに伴う準備等を計画的に行い子どもの安心安全を確保すると共に、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことができる活動を通して、健康な心身をつくるための生活習慣を形成します。(体) ・地域の魅力を発見したり、地域とのつながりについて学んだりする機会を通して、自分から地域とつながりを持つようとする子どもを育てます。(公) ・たてわり活動や一般級と個別級の交流等を通して違いを互いに認め合い、安心して学べる学校をつくりまします。(開) ・全職員が一丸となり、積極的に活力に満ちた教育活動にあたるための機能的な校内組織づくりを推進します。(組織運営・人材育成)
--------	--

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①「人やものに豊かにかかわり、ともに未来を創る子」の実現をめざし、児童が学び合う楽しさや喜びが実感できるよう教師の手立てを磨き、授業力が向上できるよう校内授業研究に取り組む。②横浜市学力状況調査の結果を分析し、各学年で具体的取組を行い学力向上につなげる。③読書タイムを学年内で交換して行うことを通して、児童との関わりの場を増やし、組織的・多面的な児童理解に基づく生活指導を行う。また基礎基本の定着を図るために、計算タイムを継続する。
豊かな心	① 道徳、人権や特別支援教育などの研修を生かしながら、年間を通して他者理解につながる取り組みを行い、児童のコミュニケーション能力の育成や相互理解を深めていくようにする。② 校内のあいさつ運動への取組を生かしながら、自分からあいさつすることの良さを実感できるようにする。③ YPアセスメントを年2回実施して支援検討会を開き、だれもが安心して豊かに過ごすことができる学級づくりに向けて協働する。
健やかな体	① 体育科では、めあてと振り返りを大切にできるような喜びを実感できるようにするとともに、友達と関わりながら体を動かす楽しさを味わえるようにする。② 保健学習や家庭科では、自らの生活習慣や食生活を振り返り見つめることができるように健康な心身を育む意欲に繋がられるようにする。③ 集会活動では、目標をもって取り組めるようにするとともに、友達との関わりをもちながら楽しく体を動かす習慣を身に付けられるようにする。
公共心と社会参画	①新学習指導要領を理解し、児童の学校での様子や成長を見取って、保護者に伝えるように「あゆみ」を作成する。②学力・学習状況調査の結果から各学年・学級の課題を明確にし、重点的に取り組む。③児童が主体的に「地域とのつながり」の視点で教育課程を見直し、目的を明確にして学習活動に取り組むようにする。教師も地域行事に参加し、児童の意識を高めたり、授業へつなげたりする。
未来を開く志	①たてわりで遊ぶ機会を増やし、子ども達が年齢や性別、障害の有無等に関わらず、自他の違いを受け止めながら、遊びを通してお互いの存在を認め合い、共に生きる仲間としての心情を培えるようにする。②支援の必要な児童について全職員で共通理解を図り、理解を深め、多くの目で見守り、支援する体制を作る。
いじめへの対応	①いじめ防止対策委員会、児童理解研修や学年主任会など、職員間の児童理解を深める機会を増やしていくことでいじめの未然防止や早期発見に努めていく。また、いじめが疑われた場合には、チームで迅速かつ確かな対応を行う。②年2回のYPアセスメントにより学級風土の確認を行い、支援対策を行ったり、子どもの社会的スキル横浜プログラムを活用したりして人との関わり方のスキルやコミュニケーション能力を高めていく取組を行う。③横浜子ども会議で話し合ったことや福祉委員会の活動を全校に広めていくことで児童が主体的によりよい人間関係を作っていくようにする。
人材育成・組織運営(働き方改革)	①一部教科分担任を全学年に導入し、多面的な児童理解と育てたい子ども像を明確にした授業改善を行うことで学年経営力を強化する。②校内の様々な研修の学びをつなげ、新学習指導要領の理解深化、日々の実践を行いながら、課題を見出したり、学びや実践を共有したりして組織運営を行う。③職員室業務アシスタント配置に伴う具体的な学校業務改善の取組を提案し実践する。

